

ニュース詳細 (www.randa.org)

R&A と USGA は同じようなハザードをならすことについての見解を発表

部署：規則

日時：2008年4月8日



R&A と USGA の各規則委員会の代表者から構成されている合同規則委員会 (JRC) は、同じようなハザード (バンカーであるかウォーターハザードであるかにかかわらず) の状態をテストすることについての規則 13-4a の解釈を発表しました。

通例の4月の会議で、JRC は前回の4年に1度の規則改定サイクルで解決が持ち越しとなっていた問題を含み、規則 13-4 (球がハザード内にある場合；禁止行為) に関連するいくつかの問題を再検討しました。そうした問題のひとつは、あるバンカー(A)内に自分の球があるプレーヤーが、ストロークを一度もしていない別のバンカー(B)の砂を整備のためにならすことができるかどうかということでした。

議論の結果、JRC は以下の見解に合意しました (即時発効)：

「規則 13-4a は、プレーヤーが自分の球があるハザードや同じようなハザードの状態をテストすることを禁止しています。それにもかかわらず、2008年に導入された規則 13-4 例外 3 は、プレーヤーがハザード(A)からプレーして球が同じようなハザード(B)に入った後に、ハザード(A)の状態をテストすることを認めています。裁定 13-4/0.5 では、ハザードの状態をテストしていることになる行為の例として、レーキ、クラブ、あるいはその他の物でバンカーをならすことを挙げていますが、ゴルフ規則のエチケットの章では「バンカーから出る前に、プレーヤーは(a)自分が作ったバンカー内の穴や足跡は勿論、(b)近くにある他のプレーヤーの作った穴や足跡もすべて入念に埋め、平らにならしておくべきである。」と規定しています。」

2つ以上のバンカーが関与したときに、プレーヤーが適切なゲームのエチケットを順守することを禁止することは規則 13-4a の意図することではありません。したがって、プレーヤーの球がバンカー内にある場合、もしそのプレーヤーが別のバンカーの砂をならしたとしても、(a)ならすことの目的がそのバンカーを整備するためであり、(b)ならすことがそのプレーヤーの次のストロークに関して規則 13-2 (球のライや意図するスタンス・スイング区域、プレーの線の改善) の違反とはならず、(c)ならすことがそのプレーヤーの引き続いてのストロークに影響を与える合理的な可能性がないことを条件として、規則違反とはなりません。

プレーヤーがバンカー内に球があり、その球に対して最初のストロークを行う前にそのバンカー内の砂をならした場合、規則 13-4a の違反となります。

通常、JRC は4年に1度のゴルフ規則の改定と2年に1度のゴルフ規則裁定集の改定以外で協議結果を公表することはありませんが、R&A と USGA はこの種の問題が生じた場合にはゴルフ規則についての質問に非公式に答えます。

問題はニューオリンズで開催されたチューリッヒクラシックでのスチュワート・シンクを巻き込んだ最近の裁定に関連して生じました。その状況では、自分の球がバンカー内にあったときに、プレーヤーはストロークを行っていなかった別のバンカー内の砂をならしたことに對して罰を受けました（この裁定は、当時の **USGA** ゴルフ規則委員会の見解に従ったものでした）。将来的にそうした行為が規則違反とならないように、**JRC** は同じようなハザードをならすことについて合意した見解を公表することに決めました。

※日本語訳について

この日本語訳は参考までに作成したものであり、内容について疑義が生じた場合には、**R&A** ニュース原文が優先することにご留意ください。